

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんな

自治会の
可能性を考えよう





自治会が

地域でできること

私たちの住んでいる地域には必ずある自治会という組織。自治会とは実際に何をしているのか、何のためにあるのか知っていますか？自治会とは「一定の地域に住む人々がその地域を快適で住みよい町にするため、自らの意思で結成され、自主的に運営される任意の団体です」（四街道市発行 区・自治会ハンドブックより）。そのため、運営方法や役員の決め方、また会費の額などは各自治会で自由に決めることができます。

今、若い人を中心に自治会に入る必要を感じない人が増えてきています。今号では、市内の2つの事例を紹介し、自治会が住民の参加を促すためにできることを考えていきます。



左からベネヴォール代表 小原さん、副代表 関井さん、鷹の台自治会長 皆川さん

ボランティアサークル代表が自治会役員

鷹の台に、自治会の組織の一員となっている託児ボランティアの「ベネヴォール」（フランス語でボランティアの意）というサークルがあります。ベネヴォールは自治会から金銭面などの支援を受けながら、地元の吉岡小学校と連携し、平成18年から活動しています。保護者会や個人面談の際、校内で低学年の児童やその弟・妹を預かるのが主な活動です。現在は、立ち上げメンバーや、以前託児をしてもらった母親など約10名が登録していて、代表と副代表は自治会役員という立場です。

小学校から保護者会などの日程の連絡が来ると代表が登録メンバーに呼びかけ、各自が都合に合わせて託児ボランティアに参加します。託児利用者は、小学校を通して事前に申込みます。場所は校内の多目的室で、おもちゃや絵本なども揃えられているので、子どもたちは退屈せずお迎えを待つことができます。校内で地域の人に預かってもらえる安心感があり、利用者や学校の先生からも落ち着いて話ができると好評です。

校内で託児をするという取り組みは珍しい事例ですが、この活動が自治会組織の一役として行われていることも大きな特徴です。以前から子育て中の母親の自治会役員への参加は難しいという声がありました。小さい子がいても地域のための活動に参加できる方法として、立ち上げメンバ

住民みんなが活躍できる 仕組みを目指す



電電栗山自治会
かんだわよしのぶ
会長 神澤義信さん
お話を伺いました

高齢者が多い地域の自治会長として住民同士が助け合い支え合える仕組みづくりを目指している神澤さん。他地域の先進的な取り組みなども積極的に見学し、自分たちの地域に合ったやり方を試行錯誤しながら実践しています。

高齢者が健康で明るく暮らしていける地域を目指し、平成25年11月に高齢者支援グループを自治会の組織として立ち上げました。これは地域の高齢者を住民で支援していこうというものでした。これを平成27年に「栗山細野ふれあいサロン」として住民なら誰でも自由に参加できるようにし、さまざまなプログラムを同好会として支援して、同じ趣味の住民が気楽に集まることで、顔の見える関係をつくりながら楽しめるようにしました。サロンを始めたことで、地域の課題が見えてきたほか、住民にとっては居場所ができた、自治会としては今まで関わりのなかった人に出会う場にもなりました。

昨年11月に落成した新しい自治会館も「自治会館新築前自前工事ボランティア実行委員会」を立ち上げ、予算の足りない部分の工事を自分たちで行い

ました。メンバーは、今まで知り合った住民の中から、工事の専門知識や技能を持った人を募りました。

得意分野を生かして地域の中で活躍してほしいと願っていますが、自治会の活動に興味をもって参加してくれる人を増やすのは簡単ではありません。少しずつでも住民の参加が増え、みんなが活躍できる地域を目指していきたいと考えています。



電電栗山自治会の皆さん

一が、自治会にベネヴォールの代表を役員のひとつに組み込むよう働きかけ、現在に至ります。

地域とつながるきっかけに

現ベネヴォール代表のこはらあやか小原綾香さんは、4年前妊娠中に鷹の台に越してきました。当時は知り合いが全くいない状態でした。しかし、近所でベネヴォールの活動を聞き、子どもが好きだったこともあり、一昨年役員に立候補しました。2年目の今ではたくさんの小学生やその保護者はもちろん、自治会の夏祭りや自治会館で開かれているちびっこハウスへ手伝いに行くことで、様々な年代の知り合いが増えたと言います。「ベネヴォールの活動を通してできた地域の人との関係は、子育て中は特に大切に感じています。また防犯にも役立っていると実感します」と小原さんは話します。一方で現鷹の台自治会長みながわたかし皆川孝壽さんは「ベネヴォールへは資金面での支援が中心です。女性も活躍できる、そんな活動があってもいいのでは」と話します。

年に数回の活動ではありますが、ベネヴォールは子育てがひと段落した人など幅広い世代の住民が活躍できる場です。そして鷹の台の人同士がつながるきっかけにもなる、地域にとって大切な場になっています。

視点をかえて広げる自治会活動

快適で住みよいまちを目指すという自治会活動の目的を考えると、住民は自分の住んでいる地域に関心を寄せる必要があります。自治会はお祭りなどへの参加や自治会役員になってもらうことだけでなく、多くの住民の参加を促し活動を広げるために、視点を変えてみるのいいかもしれません。

例えば、ライフステージに合わせた参加という視点で子育て中の母親や平日は参加できない社会人など、いまままで自治会活動に参加しにくかった人も関わることでできる仕組みをつくることです。先のベネヴォールのように、自治会が地域内のボランティア活動を支援し継続を助けることは、地域のために活動できる人の幅を広げることにつながっています。

また、専門知識や特技のある住民を埋もれさせることなく活躍してもらう、電電栗山自治会の取り組みも、地域のために自治会に関わる人を増やすための試みとして参考になるでしょう。

このように、自治会が単独ではなく地域のボランティア活動や幅広い人材と連携することで、多くの住民が自治会活動に参加する可能性が広がります。住民自身が今よりももっと住みやすい地域をつくりたいと考えた時、自治会ができることはたくさんあります。

自治会情報交換会に関する みんなで地域づくりセンターの これまでの取り組み



自治会情報交換会は、自治会役員が運営について他の自治会と情報を交換し、地域の課題を共有する場が欲しいという要望に応じて、平成23年1月に地域づくりサロンとしてスタートしました。区・自治会長、自治会役員が、地域は違って同じ立場で話し合える開かれた場として開催しています。

これまでは防災をテーマに「いざという時どう住民を守るのか」ということや加入者の減少、役員後継者難などの課題が取り上げられてきました。

最近では、急速に進む地域の高齢化の

課題にどう向き合い何をすべきかを考えるために、昨年1月、IIHOE代表の川北秀人さんをお招きし「地域で支える高齢化の時代～5年先・10年先にむけて、今始めるべきこと～」と題して、講演と意見交換の場をもちました。

また11月には、第17回目を開催し、地域での支え合いの活動について、自治会役員だけではなく、民生委員・児童委員、社会福祉協議会や市民団体など地域で活動する方々と話し合っ、課題を共有しました。

おしらせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。

お申し込み、お問い合わせは
みんなで地域づくりセンターへ
お電話ください。

Tel.: 043-304-7065



みんなで地域づくり
キャラクター
くりんちゃん

第6回子ども支援団体交流会

子どもの状況をより詳しく調べようと、子ども支援団体交流会参加者の中から希望者を募り「子どもプロジェクト」を始めました。市内外の支援機関や関係団体へ足を運び、子どもの現状や支援の状況を聞き取り調査しました。今回は、これまで調べた内容をもとに、市内の状況と今後必要と思われる支援についてのまとめを報告します。市内で子どもの支援に関わっている方、民生委員・児童委員をはじめ、子どもの支援に興味のある方なら、どなたでも参加いただけます。

日時：平成30年2月23日（金） 10:00-12:00

場所：文化センター 204・205

内容：市内の子どもの現状

- 子どもプロジェクトのこれまでの報告
子どもの現状報告／支援団体、支援状況の報告
- 子どもの居場所を見学しての報告
みそら小おはなしの部屋／神奈川県立田奈高校ぴっかりカフェ
- ワークショップ

今号で紹介した団体について

子育て支援サークル ベネヴォル
(鷹の台自治会内)

連絡先は非公開のため、
問い合わせは当センターまで

電電栗山自治会

所在地：四街道市栗山1000-5
Tel.: 043-420-1231 (神澤)

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター
(四街道市シティセールス推進課分室)

開館日時：火-金 9:00-20:30 / 土 9:00-17:00

休館日：日・月・祝日・年末年始

第1・第4月曜日が祝日の場合、翌日火曜日休館

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

Tel.: 043-304-7065 Fax.: 043-422-7051

E-mail: info@minnade.org

Web: http://minnade.org/

Facebook: https://facebook.com/yotsukaido.tiikidukuri/

センターの
ホームページは
こちらから



今号の表紙 「みんなで自治会の可能性を考えよう」

子育て支援サークル「ベネヴォル」の皆さん

地域活動を自治会が支援することは、若い世代が地域に参加するきっかけにもなり、自治会にとっては新しい人材と出会う可能性を広げます。

みんなで No.14

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター

発行日：平成30年1月1日

発行部数：4,000部